



KALS 大学院入試対策講座 受講生の皆様

100%合格に向けて！チューターからメッセージ

2009 チュートリアル通信

【心理系大学院受験対策③】

河合塾KALSの大学院入試対策講座（心理系）では、チューター制度を導入しています。チューターには、当校の合格者OBを中心に編成。授業での合格指導のみならず、受講生向け学習ガイダンス「サクセスチュートリアル」や個別指導などを通じて、受講生からの進路・志望先に関する事、自主学習に関する事など、合格に向けてきめ細かくアドバイスをしています。以下は、チューターから心理系受講生の皆さんへのメッセージです。今後の受験対策のご参考にしてください！

## 心理系の資格について（1）臨床心理士

日本の心理学に関する「資格」を紹介していきたいと思います。まず、今回は、臨床心理士の資格と最新の臨床心理士事情についてお話ししましょう。「臨床心理士になりたい！」と思っている方は、たくさんいらっしゃると思います。そこで、

- ・臨床心理士の資格はどんな位置づけなのか？
  - ・臨床心理士とはどんな仕事をする人なのか？
  - ・臨床心理士の活躍の場はどこなところなのか？
  - ・臨床心理士になるには？
  - ・臨床心理士の収入は？ 就業形態（常勤・非常勤）は？
- 等についてお伝えします。

### ■臨床心理士とは

現代は、こころの問題が増加し、その解決をはかるためになんらかの援助を必要とすることが多くなってきています。臨床心理士とは、「カウンセラー」「セラピスト」「心理職」など様々に呼ばれている心理学の専門家のうち、臨床心理学を学問的基盤に持つ者のことを言います。

日本臨床心理士資格認定協会では、1988年から一定の水準に達していると認められる臨床心理士の認定業務を行っています。現在では、原則として指定された大学院を修了し（第1種指定大学院の場合）、あるいは修了後1年以上の臨床経験（第2種指定大学院の場合）を経て、臨床心理士資格試験に合格した場合に認定資格が与えられます。

一方、「心理療法士」「心理判定員」「〇〇相談員」「〇〇カウンセラー」などなど、それぞれの職場ごとに様々な職名がありますが、臨床心理士の資格が国家資格ではないこともあって、必ずしも臨床心理士資格がないとそれらの職に就けないわけではありません。しかしながら、臨床心理士は心理カウンセラーの中でも社会的認識と評価が高い資格で、心理職の採用基準として臨床心理士資格を取得していることを問われる事が多くなっています。

### ■臨床心理士の仕事

臨床心理士は、臨床心理学など心理学の知識や諸技法を生かして、専門的に援助します。臨床心理士の専門的技術は、大まかに次のように分類されています。

#### (1)臨床心理アセスメント

面接や観察、各種の心理検査などによって、その人をよく知り、どのような援助のしかたが適切であるかを総合的に判断します。

#### (2)臨床心理面接

必要に応じて、さまざまな臨床心理学的専門技法を用いながら、こころの問題に対する援助を行います。心理カウンセリング、遊戯療法、箱庭療法、芸術療法、夢分析、精神分析、来談者中心療法、行動療法、家族療法、動作法 など。

#### (3)臨床心理的地域援助

こころの問題を解決するためには、個人の心だけを扱うのではなく、その人を囲む環境への働きかけが必要となることがあります。専門家との連携や地域社会への介入も、大切な仕事です。

#### (4)臨床心理学的研究

実践をより実り豊かにするために、その基礎となる臨床心理学的研究活動が行われています。

### ■臨床心理士が働いている職場

臨床心理士の働く領域は多くの分野にわたり、以下のようなさまざまな職場で活躍しています。

#### (1)教育の分野

地方自治体が設置する教育研究所・教育センター・教育相談室、大学の心理教育相談室・学生相談室、小・中・高校のスクールカウンセラー、など。

(2)私立の相談機関

私設心理相談室、カウンセリングセンター、など。

(3)医療・保健の分野

病院(精神科・心療内科・小児科などの臨床心理室)、精神保健福祉センター、保健所、リハビリテーションセンター等。

(4)福祉の分野

児童相談所、女性相談センター、更生相談所、身体障害者福祉センター、児童福祉施設など。

(5)司法、矯正の分野

家庭裁判所、少年鑑別所、少年院、刑務所、警察関係の相談室、保護観察所、など。

(6)労働・産業の分野

企業内の健康管理室や相談室、公共職業安定所、障害者職業センター、など。

■臨床心理士になるには

臨床心理士の資格は、心理学を専攻する指定された大学院修士課程を修了し(第1種指定大学院の場合)、あるいは修了後1年以上の心理臨床経験を有する者(第2種指定大学院の場合)が、資格審査(年1回の筆記・口述試験)に合格した場合に、財団法人日本臨床心理士資格認定協会が認定するものです。

また、資格取得後も5年毎に資格更新審査が行われ、心理臨床能力の維持発展のために、研修や研究が義務づけられています。この研修が一定のレベルを満たさない場合は、臨床心理士の資格を抹消されることになります。

【平成20年度臨床心理士資格審査 結果】

受験者数 2,412名、合格者数 1,579名、合格率 65.5%

累計資格取得者数 19,830名

■指定大学院の概要

臨床心理士資格試験を受験するには、本協会の指定を受けた臨床心理士養成に関する大学院修士課程(博士前期課程)の修了が必須となりました(医師、諸外国における大学院を修了した者を除く)。指定制度を設ける背景には、臨床心理士は、心の専門家(高度専門職業人)養成のため一定水準以上の基本的な知識と技能を有することが期待されていること、臨床心理士の教育・訓練システムの整備を図ることといった目的があります。

なお、平成21(2009)年7月1日現在、全国で157大学院(第1種 137校、第2種 20校)が指定を受けています。

■臨床心理士の動向

日本臨床心理士会は、3年に1度「臨床心理士の動向ならびに意識調査」を行っています。2007年度に第5回調査がありました。その結果を少しだけ紹介したいと思います。

(1)臨床心理士の男女比

1:3と女性の占める割合が高い。

(2)年齢

(20歳代 16.7%)(30歳代 39.8%)(40歳代 20.5%)(50歳代 15.2%)(60歳代 6.0%)

(3)現住所

(北海道 2.4%)(東北 4.5%)(関東 38.4%)(甲信越・北陸 4.8%)(東海 10.7%)  
(近畿 20.4%)(中国・四国 8.9%)(九州 8.5%)(沖縄 1.0%)

(4)現在の就業形態

(常勤のみ 31.8%)(常勤+非常勤 15.8%)(非常勤のみ 46.1%)(勤務なし 6.2%)

(5)年収

(300万円台 19.8%)(200万円台 17.0%)(400万円台 14.1%)

この3階級で回答の約半数を占める。

(6)勤務領域

(保健医療 28.3%)(教育 23.7%)(大学・研究所 17.4%)(福祉 12.3%)  
(司法・法務・警察 3.7%)(私設心理相談 3.7%)(産業・労働 2.2%)

やはり、女性が圧倒的に多い職種であり、関東に約4割、近畿に2割の臨床心理士が集中しています。就業形態を見ると、半数以上の方が複数の仕事を掛け持ちして生計を立てています。勤務先は、病院などの医療機関がトップ、その次に学校での相談業務と続きます。

※参考資料

一般社団法人 日本臨床心理士会 ホームページ

財団法人 日本臨床心理士資格認定協会 ホームページ

第5回「臨床心理士の動向ならびに意識調査」報告書 日本臨床心理士会(2009年3月)

以上